



内閣府

平成31年1月21日

～美ら島の未来を拓く～  
沖縄総合事務局

## 入札監視委員会の審議概要について

### 記者発表資料

沖縄総合事務局開発建設部 入札監視委員会(平成30年度第3回)が、平成30年12月18日(火)に沖縄総合事務局において開催されました。  
審議内容は別紙のとおりです。

#### 【問い合わせ先】

沖縄総合事務局開発建設部管理課 契約管理官 金田 好章

契約第一係長 琴岡 稔幸

代表 098-866-0031 (内線 2356・2526)

直通 098-866-1981

沖縄総合事務局開発建設部 入札監視委員会(平成30年度第3回) 審議概要

開催日及び場所		平成30年12月18日(火) 沖縄総合事務局 4階 事業審査室	
委員		委員長 小倉 暢之 (琉球大学工学部教授) 委員 鈴木 啓子 (税理士) 委員 田村 ゆかり (弁護士) 委員 仲地 健 (沖縄国際大学産業情報学部教授) 委員 中村 真也 (琉球大学農学部教授) (委員は50音順:敬称略)	
審議対象期間		平成30年7月1日～平成30年9月30日	
抽出案件		総件数 5 件	(備考)
工事	一般競争 (政府調達)	0 件	○ 入札・契約の状況等、工種別発注状況等並びに指名停止・再度入札の発生状況について報告を行った。
	一般競争	2 件	
	公募型指名競争	0 件	
	工事希望型競争	0 件	
	通常指名競争	0 件	
	随意契約	0 件	
建設コンサルタント業務等		2 件	
役務の提供等及び物品の製造等		1 件	
		意見・質問	回答
委員からの意見・質問、それに対する回答等		別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容		なし	

(別紙)

意見・質問	回答
<b>定例報告</b>	
<b>1 入札・契約に関する状況等</b>	
○ 低入札が発生した5件のうち、1件が契約に至っていない理由は。	・ 契約後に義務づけられている成果品への第三者照査が実施できないということで辞退したものの。
<b>2 対象期間における発注案件について</b>	
<b>3 指名停止措置の運用状況</b>	
<b>4 再度入札における工事別一位不動状況</b>	
<b>5 一者入札推移</b>	
<b>抽出事案</b>	
<b>1 工事</b>	
◆ 平成30年度管内ダム放流設備等補修工事	
○ 1者応札の理由をどう考えているか。	・ ダムの水門設備は特殊なため、製作したメーカー系列以外の業者は参加しない傾向がある。
◆ 平成30年度宮平・新川地区舗装他工事	
○ 13者参加申請しているが、辞退が8者と多いのはなぜか。	・ 多くは、先に受注した工事に技術者を回したため、本件の技術者を確保できないとのことだった。
○ 各業者は、チャレンジ型の発注方式に対応できているのか。	・ 今回も数社が若手の技術者で参加しており、本方式が浸透していると思っている。
<b>2 建設コンサルタント業務等</b>	
◆ 平成30年度北部国道管内道路台帳作成(その1)業務	
○ 測量業務は低入札が生じやすいのか。	・ 必ずしも生じやすいわけではなく、実績作りや、業務量確保のため低入札を行ったと考えられる。
◆ クルーズ船受入れに関する地域振興検討業務	
○ 参加表明書を提出した業者が1者だった理由は何か。	・ 関心を示して資料を取り寄せた業者はあったが、人員確保が難しい、会社の業態上履行できないと判断した等で結果的に参加されなかった。
○ 見積回数が8回に及んでいるが、仮に業者と予定価格が折り合えなければどうなるのか。	・ そのような場合には発注をやり直すことになる。
<b>3 役務の提供等及び物品の製造等</b>	
◆ 那覇局外デジタル端局装置製造	
○ 低い価格で落札した事情と、品質確保の状況は如何か。	・ 推測であるが、落札者は同種の実績が無かったので競争上不利と考え、思い切った価格で勝負に出た可能性が考えられる。品質については施工を厳格に監督しており、現時点で問題は見られない。